

【11月のテーマ】 歌で楽しむ自然観察

案内人：木村稔・小泉伸夫（鳥の博物館市民スタッフ）



▲在原業平の伊勢物語に出てくる「都鳥（ユリカモメ）」

日本の古典和歌「万葉集」には様々な生き物が登場します。歌で詠まれるのは身近な生き物が多く、昔の人々がどのように生き物を見ていたのかを窺い知ることができます。また、近現代の唱歌や童謡にも、メダカやでんでんむし(カタツムリ)などが出てきます。今日は皆さんの知っている歌の中に出てくる生き物を思い出しながら実際に観察してみましよう。

2022年11月12日（土）

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

万葉集に出てくる鳥たち



にほ鳥の潜く池水心あらば
君に我が恋ふる心示さね

カイツブリ



阿傍の島鵜の住む磯に寄する波
間なくこのころ大和し思うほゆ

カワウ



みさご居る荒磯に生ふる名乗り藻の
よし名は告らせ親は知るとも

ミサゴ

和歌で使われる季語(秋冬編)

冬鷺(ふゆさぎ)

冬に見られるサギ類

鳩鳥(におどり)

カイツブリの古名

鶉(つぐみ)

秋の季語、ツグミの仲間

浮寝鳥(うきねどり)

カモなど水面で寝る鳥の総称

寒雀(かんすずめ)

冬の羽を膨らませたスズメ

秋沙(あいさ)

冬に飛来するミコアイサなど

都鳥(みやこどり)

ユリカモメの古名

寒雁(かんばん)

冬に飛来するマガンなど

鴨打(かもうち)

冬の季語、鴨猟のこと